

「総合理学療法学」執筆規程

(論文の構成)

第1条 「研究論文」「症例研究」の構成

- (1) 標題 (表題) : 内容を具体的かつ的確に表し, できるだけ簡潔に記載する。原則として略語・略称は用いない。用語は本文に用いた言語とし, キーワードを含むように配慮する。
- (2) 著者名 : 著者は当該研究・執筆に寄与するところの多い人を必要最小限に記載する。審査開始後の著者の変更は原則認めない。
- (3) 要旨 : 「目的」「方法」「結果」「結論」について項を分けて簡潔に記載する。英文の要旨も記載する。
- (4) キーワード : 3 ~ 5 つとする。標題および要旨より抽出し, 不十分な場合は本文から補充する。国際的に広く通用する言語 (英語など) または日本語で記載する。
- (5) 本文 : 本文は原則以下の項目に沿って本文を構成する。
 - ①はじめに : 研究の背景, 臨床的意義, 研究の目的, 取り扱っている主題の範囲, 先行研究との関連性などを記述する。
 - ②対象および方法 : 用いた研究方法について第3者が追試できるように記述する。倫理的配慮に関して、倫理審査委員会による承認について明記する。
 - ③結果 : 研究で得られた結果を本文および図表を用いて記述する。データは, 検証追試を行いやすいように図 (グラフ) よりも表にして数値で示す方が望ましい。
 - ④考察 : 結果の分析・評価, 今後の課題などを記述する。
 - ⑤結論 : 研究で得られた結論を 200 ~ 300 字で簡潔に記述する。
 - ⑥利益相反 : 利益相反の有無について記載する。有の場合は, 著者ごとに記載する。

例) 利益相反 : 開示すべき利益相反はない

例) 利益相反 : 学会太郎 : 本研究に関する費用は, ○○○ (企業名・団体名) が (一部) 負担した。学会花子 : なし。
 - ⑦謝辞 : 著者資格に該当しない研究への貢献者, および助成金受給等について記載する。
- (6) 文献 : 引用文献のみを, 本文の引用順に記載する。(記載方法は下記参照)
- (7) Appendix (補遺) : 任意項目であり, 必要に応じて本文の内容を補足する。もしくは載せられなかった詳しいデータ等を記載する。この場合, 本文中の関連箇所に「Appendix 番号」を記載すること。Appendix は電子付録として扱われ, 紙面に掲載される際には印刷されないためあくま

でも補足的なデータとして使用する。本文中の論旨に関わるような内容については、本文に図表として投稿すること。

2 「症例報告」の構成

- (1) 標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語・略称は用いない。用語は本文に用いた言語とし、キーワードを含むよう配慮する。
- (2) 著者名：著者は当該研究・執筆に寄与するところの多い人を必要最小限に記載する。審査開始後の著者の変更は原則認めない。
- (3) 要旨：「はじめに」「症例紹介」「経過（結果）」「考察・まとめ」について項を分けて簡潔に記載する。
- (4) キーワード：キーワードは、3～5つとする。標題および要旨より抽出し、不十分な場合は本文から補充する。国際的に広く通用する言語（英語など）または日本語で記載する。
- (5) 本文：本文は原則以下の項目に沿って本文を構成する。
 - ①はじめに：対象を選択した理由や根拠を記述する。
 - ②症例紹介：症例の基本的事項；基本情報（年齢、性別等）、病歴（現病歴、必要であれば既往歴、家族歴、社会生活歴）、臨床検査所見、理学療法評価結果、理学療法方針・介入内容を簡潔に記述する。倫理的配慮およびプライバシーの保護に関しては、投稿規定「研究倫理」の記載内容に従うこと。
 - ③経過（結果）：介入経過（結果）を簡潔に記述する。
 - ④考察：過去の報告との類似点や相違点について比較検討を行い考察する。今後の治療の展開・方針転換や研究への広がりがある場合は、それらの提案についても記述する。
 - ⑤まとめ：症例を通じて明らかになった点を簡潔に記述する。
 - ⑥利益相反：利益相反の有無について記載する。ありの場合は、著者ごとに記載する。

例）利益相反：開示すべき利益相反はない

例）利益相反：学会太郎：本研究に関する費用は、〇〇〇（企業名・団体名）が（一部）負担した。学会花子：なし。
 - ⑦謝辞：著者資格に該当しない研究への貢献者、および助成金受給等について記載する。
- (6) 文献：引用文献のみを、本文の引用順に記載する。（記載方法は下記参照）
- (7) その他：編集部の判断により、症例検討の内容によっては「研究論文」の構成で本文の再構成を指示する場合がある。

(投稿原稿の構成)

第2条 表紙頁, 要旨, 本文, 文献, 図表, 図表の説明文, Appendix (任意) で構成する。原則として, マイクロソフト Word ファイルとし, ファイルを以下の通りに分けて提出する。

【研究論文】【症例研究】

1.表紙頁, 2.和文要旨 (キーワード含む), 3.英文要旨 (keyword 含む), 4.本文 (文献含む), 5.図表 (説明文含む)

【症例研究】 1.表紙頁, 2.和文要旨 (キーワード含む), 3.本文 (文献含む),
4.図表 (説明文含む)

(原稿の規程分量)

第3条

- (1) 「研究論文」「症例研究」は, 和文要旨・英文要旨・文献・図表を含み, 原則として刷り上がり 8 頁 (400 字詰め原稿用紙 40 枚・16,000 字相当) 以内で執筆する。図表は, 刷り上がり 1/4 頁大のもの 1 個を 400 字として換算する。
- (2) 「症例報告」は, 要旨・本文・文献・図表 (5 枚以内) を含み, 原則として最大刷り上がり 4 頁 (400 字詰め原稿用紙 24 枚・9,600 字相当) 以内で執筆する。

(表紙頁)

第4条

- (1) 論文には表紙頁をつける。
- (2) 表紙頁には, ①希望する記事の種類 (研究論文, 症例検討), ②標題, ③著者名 (共著者を含めて記載), ④所属名 (共著者を含めて記載), ⑤責任著者連絡先 (氏名, 所属, 会員番号, 郵便番号・住所・電話・Email), ⑥論文ページ数を記載する。

(要旨)

第5条 全ての論文には和文の要旨 (400 字程度) をつける。また, 研究論文には 250 語程度の英文要旨をつける。英文要旨は, ネイティブ・スピーカーの校閲を著者自身の責任で受けること。要旨にはキーワード (3~5 つ) も記載する。

(本文)

第6条

- (1) 余白 25 mm, 40 文字×30 行のレイアウトで, フォントはMS明朝体, 標準, 10.5 ポイントを使用する。英数字は「日本語と同じフォント」とし, 数字は半角とする。
- (2) 文章は楷書・横書き, 口語体, 現代かな遣い, 数字は算用数字, 単位は国際単位系 (SI 単位) を用いる。

- (3) 章は 1, 2…, 節は 1), 2) …, 項は (1), (2) …, 以下①, ②…とする。
- (4) 句読点は、日本文の場合は全角の「,」「。」を使用し、英文は半角の「,」「.」を使用する。
- (5) 引用文献は、引用した内容の直後、著者名の後、もしくは文章全体の場合は、「,」や「.」の前に付ける。引用文献記載数字は半角上付きとする。
例) 大阪ら¹⁾により・・・, 例)・・・である¹⁾。
- (6) 複数の引用文献の記載は以下のようにする。
例) 1,2) 1,3) 1-5) 1,4,5) 1-3, 5-7)
- (7) 和文本文内の括弧は全角を用い、括弧の前後に半角スペースは入れない。
例) (図参照), 理学療法 (physical therapy),
- (8) かな, 漢字, 英数字, 符号の間は、半角スペースを入れる。
例 1) 平均 1.0 ± 0.3 日 例 2) $r = 0.77$ 例 3) $p < 0.05$
例 4) $n = 20$ 例 5) 3 kg 例 6) $a + b$ (数式の場合)
- (9) 以下のような単位, および連続することで意味をなす符号は例外的に半角を入れない。なお, 下記の例外以外は, 原則半角を入れる。
例 1) 70%, 37°C, 90°, 5N 例 2) +1, -2

(図表)

第7条

- (1) 図・表は本文に出てくる順に、それぞれ一連番号をつける。グラフィック表現および写真は図に含める。図の番号および表題は図の下に、表の場合は表の上につける。1頁に一つの図もしくは表を添付する。図表の説明(キャプション)は表題の下に記載する。スライド図・表は投稿用に作成し直す。
- (2) 図・表の転載は投稿前に著者の責任で転載許可をとり、投稿時に許可書を提出する。他書(他誌)から図表等を転載する場合は、原稿の一部となるため、論文著者の責任において著作権者に許諾申請を行い、使用した図表にはその旨を記載する。また、出典を明記する。Webサイトに掲載されている著作物(写真など)についても同様に扱う。無断転載は著作権の侵害となる場合があるため注意する。以上について編集部は一切の責任を負わないものとする。

(文献)

- 第8条 引用文献は、本文の引用順に並べる。雑誌の場合は、著者氏名、論文題目、雑誌名、発行年(西暦)、巻、頁(最初-最終)の順に書く。単行本の場合は、著者氏名、書名、編集者名、発行所名、発行地、発行年(西暦)、頁を記載する。文献の省略は、公の省略法(Index Medicusなど)に従う。引用文献の著者氏名が3名以上の場合は、最初の2名を記載する。その他は、他、または et al. とす

る。

【例】

- 1) 宮本謙三, 竹林秀晃, 他: 加齢による敏捷性機能の変化過程— Ten Step Test を用いて—。理学療法学。2008; 35: 35– 41.
- 2) Tompkins J, Bosch PR, et al.: Changes in functional walking distance and health-related quality of life after gastric bypass surgery. *Phys Ther.* 2008; 88: 928– 935.
- 3) 信原克哉: 肩—その機能と臨床— (第 3 版)。医学書院, 東京, 2001, pp. 156– 168.
- 4) Kocher MS: Evaluation of the medical literature. Chap 4. In: Morrissy RT and Weinstein SL (eds): *Lovell and Winter's Pediatric Orthopaedics*. 6th ed, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2006, pp. 97– 112.
- 5) 名郷直樹: EBM の現状と課題, エビデンスに基づく理学療法活用と臨床思考過程の実際。内山 靖 (編), 医歯薬出版, 東京, 2008, pp. 18– 38.
- 6) 厚生労働省ホームページ 障害者白書平成 23 年度版 [Internet]. 東京: 厚生労働省 [cited 2011 Dec 19] . Available from:
<http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h23hakusho/zenbun/index.html>
- 7) Abood S: Quality improvement initiative in nursing homes: the ANA acts in an advisory role. *Am J Nurs.* 2002 Jun [cited 2002 Aug 12]; 102(6): [about 1 p.]. Available from:
<http://www.nursingworld.org/AJN/2002/june/Wawatch.htmArticle>
- 8) Zhang M, Holman CD, et al.: Comorbidity and repeat admission to hospital for adverse drug reactions in older adults: retrospective cohort study. *BMJ.* 2009 Jan 7;338:a2752. doi: 10.1136/bmj.a2752. PubMed PMID: 19129307; PubMed Central PMCID: PMC2615549.
- 9) Cancer-Pain.org [Internet]. New York: Association of Cancer Online Resources, Inc.; c2000-01 [updated 2002 May 16; cited 2002 Jul 9]. Available from:
<http://www.cancer-pain.org/>.
- 10) American Medical Association [Internet]. Chicago: The Association; c1995-2002 [updated 2001 Aug 23; cited 2002 Aug 12]. AMA Office of Group Practice Liaison; [about 2 screens]. Available from:
<http://www.amaassn.org/ama/pub/category/1736.html>

(数量の単位)

第 9 条 単位は原則として国際単位系 (SI 単位) を用いる。

(長さ : m, 質量 : kg, 時間 : s, 温度 : °C, 周波数 : Hz など)

(略語)

第10条 略語は初出時にフルスペルあるいは和訳を記載する。

例) Femoro-tibial angle (以下, FTA), 大腿脛骨角 (以下, FTA)

(機器名の記載法)

第11条 機器名は, 「一般名 (会社名, 製品名)」で表記する。なお, 統計ソフトは「製品名, バージョン番号, 会社名」で表記する。

(倫理審査の記載法)

第12条 投稿原稿では委員会名 (施設名等) は記載せず, 承認番号のみの記載とする。最終原稿では委員会名および承認番号を明記する。

(謝辞)

第13条 文中で謝辞を述べる際には, 関係者同士が事前に確認し合い了解を得ることを前提とし, 編集部はこれに関する一切の責務を負わないものとする。また当該研究の実施にあたって研究費助成を受けた場合は, その資金名およびその番号を記載すること。なお, 投稿者の特定に繋がらないように投稿時には空欄とすること。

(その他)

第14条

- (1) 必要がない限り表に縦線は使用しないこと。
- (2) 本文には行番号およびページ番号を必ず記載する。

(附則) 本規程は令和3年9月1日から施行する。